

田上 時子のエッセイ

～トルコ・シワス警察研修所にて～

アフガニスタン女性警察官

能力強化研修に参加して

2005年頃から、JICA(国際交流機構)の海外支援におけるジェンダー主流化(あらゆる分野での「ジェンダー平等と女性のエンパワメント」の達成を目的にする)のお手伝いをしているが、昨年もアフガニスタン女性警察官能力強化研修ワークショップに講師の一人として参加した。

これは、アフガニスタン内務省より女性警察官の能力向上のための支援要請を受けたJICAが、アフガニスタン女性新人警察官200名を対象とした4か月間研修のフォローアップとして実施したものである。

アフガニスタンの女性達は、長い戦乱とタリバン政権の下、政治的・社会的に抑圧された生活をしてきており、妊産婦死亡率は世界で第2位、識字率の男女格差も大きく、強制結婚、幼児婚、DV、性暴力も見られ、世界で一番女性への暴力が多い国と言われている。

性差別的な慣習や伝統および国家のさまざまな制度・慣行が根強く残るアフガニスタン社会においては、女性や女兒が男性警察官に被害の実態を報告するのは困難であるために女性警察官が大きな役割を果たすことが期待される。

一方、女性が警察官として働くことへの偏見や差別のために、常にジェンダーに基づく差別やセクシュアル・ハラスメントの被害を受けていることも指摘されている。

JICAワークショップでは、日本の性暴力やDV被害者への保護や防止活動の実践的な取組や

事例、ジェンダーに基づく暴力の原因・結果・影響について理解を深め、女性や子どもたちの暴力防止のためのエンパワメントの理念や具体的な方法などを紹介した。

それにしても、JICAの仕事で現地に赴く度に、途上国の日本人への信頼が篤いを感じる。真面目に地道に物事を運ぶ日本人の特質による場所も大きいですが、一番の理由は、日本人は決して殺さない、武器を持たないという「平和友好」を基調に活動しているからだと思う。

ところが最近の日本政府のODA(政府開発支援)や外交方針を見ていると、海外にいる日本人NGOやJICAは、今後、活動がしにくくなるのではないかと危惧している。

安倍内閣は、ODA(政府開発支援)の基本方針を定めた今のODA大綱に代わる「開発協力大綱」を閣議決定した。

これまで厳しく制限してきた他国軍への支援を、災害救助など非軍事分野に限るとはいえ解禁するという。ODAの他国軍支援が実行されると、提供した物資や技術はその国の考え次第で軍事転用される可能性があり、紛争の種になるのは必至である。

他国軍支援を解禁すれば、途上国の人々の日本の信頼は失墜し、戦後70年間、先輩たちがコツコツと積み上げてきた海外支援・交流の努力が水の泡になる。

残念無念である。